

# インターオプト '99 参加報告

コーニング静岡テクニカルセンター

竹内 善明

## Report on InterOpto '99

Yoshiaki Takeuchi

Corning Shizuoka Technical Center

### 1. 概 要

インターオプト '99 が 7 月 13 日 (火) ~ 16 日 (金) に、千葉市の日本コンベンションセンター (幕張メッセ) で開催された。インターオプト (インターナショナルオプトエレクトロニクスショー) は、財団法人光産業技術振興協会が毎年主催する日本唯一の光製品総合展示会で、この分野では世界三大ショーの 1 つであり、1982 年に開催された前身のオプトエレクトロニクスショーから数えて、今年が 18 回目に当る。今展示会は、光通信関連の光部品・デバイス、伝送部材、測定機器・装置・システム、加工製造機器・装置や光学材料・部品とそれらの製造装置を始め、光レーザー機器、光センサー機器等の展示会であり、日本工業新聞社が共催し、通産省、英国大使館商務部等の後援と、社団法人応用物理学会、Optical Society of America (OSA) 等の多くの協賛を得ている。

今年「光 世界を結ぶ」をメインテーマとして掲げ、「人、もの、技術、情報を一堂に集め、ビジネスチャンスを提供します」をコンセプトとして開催され、出展は 227 社、その内初出展が 15 社、返り咲きが 4 社あった。海外

からの出展は 18 ヶ国 87 社で、アメリカの出展が多く、ドイツ、イギリス、カナダ、フランス等が続く。台湾からの出展も多かった。4 日間での来場者は延べ 77,597 人と発表されており、昨年の 79,879 人と比較して、僅かに減少した。

### 2. 傾向とトピックス

インターオプトでは、同時期に隣接する会議場で、光関連の国際会議が開催されるのが通例となっているが、今回は FST '99 (第 6 回国際フェムト秒テクノロジーワークショップ, 13~15 日)、MOC '99 (第 7 回微小光学会議, 14, 15 日)、POF '99 (第 8 回国際プラスチック光ファイバ会議, 14~16 日) が開かれた。また、これらの国際会議に関連した展示があった他、産官学の試験研究等の機関や海外の諸機関 (OSA, LEOS, SPIE, ...) も参加していた。今展示会では同時に各種のセミナーが開催され、出展社セミナーでは、23 件中 17 件が外国人講師によるセミナー、12 件がレーザー等の光源関係のセミナーであり、その他に測定技術、ソフトウェア等のセミナーがあった。主催者による関連セミナーとしては、日米 JOP ワークショップ、光産業動向セミナー、光産業ベンチャービジネスセミナー、光技術動向セミナ

一が連日開催された。全体として光情報通信関連の出展が増え、関心が集まっているのが、近年の一致した傾向である。

光通信関連の出展傾向をみると、今回も大規模出展は光部品、光源、測定器等を取り扱う会社と測定器メーカーが中心で、一番熱心なものこれらの企業であった。特に DWDM 用の測定器類は光源も含め、高性能化・高機能化が進んでいるのが印象的であった。その他コネクタ関連の展示が多く、この様な基本部品は市場が大きく、参入しやすく、結果が出やすいことがその要因と感じたが、反面競争も一段と激しくなるであろう。システムを扱う総合メーカーや線路メーカーも展示内容はインターオプトの出展傾向を反映し、半導体レーザ等の部品やモジュールが多くを占めており、部品・装置レベルでの DWDM への対応をアピールしていた。その他、光部品の製造装置や光学ソフトウェアの展示が増加傾向にあった。

個人的に新規性を感じたのは、東芝機械の PLC 用高精度自動調心装置、日本航空電子の MEMS 光スイッチ、日本電気硝子の四角穴マイクロキャピラリ等で、他に MU 形光コネクタ関連製品の充実が目をついた。

### 3. 終わりに

インターオプトは今後も光通信関連のアジア地区最大の展示会として発展していくことが予想される。しかし、光通信産業の展示会として、同展示会を世界最大の OFC 展示会 (Optical Fiber Conference, アメリカ) と比較すると、物足りないものを感じるのも正直な感想である。この要因として考えられるのは、1つには日本が未だ光通信の市場として期待されるほどには活性化していないことであろう。この分野は新規参入企業が多く (同時に企業間の再編成も進みつつあるが)、日本国内でのこの分野の急激な市場拡大に対する期待は益々膨らんでいるのであるが、市場はそれほどには拡大していない。その影響がここに表れているのかもしれない。もう1つの要因は、OFC 展示会とは異なり光通信システムに関連する展示が殆どみられないことであろう。日本の産業構造を反映しているであろうか、興味深いことである。

次回のインターオプト 2000 は 2000 年 7 月 11~14 日の 4 日間、同じく千葉市の幕張メッセで開催される予定であり、同期間に同国際会議場では OECC2000 (Fifth Optoelectronics and Communications Conference) が開催の予定となっている。